
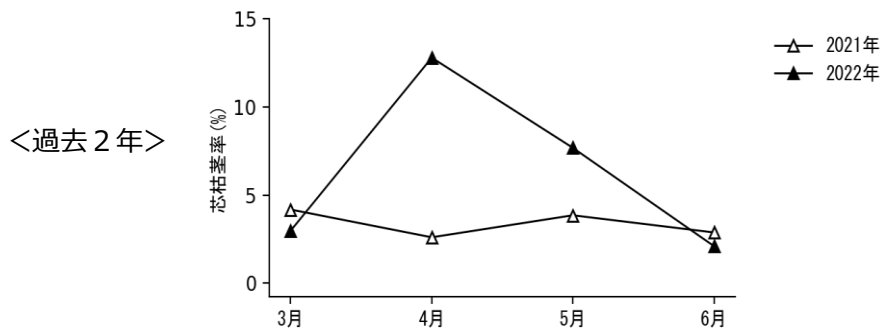
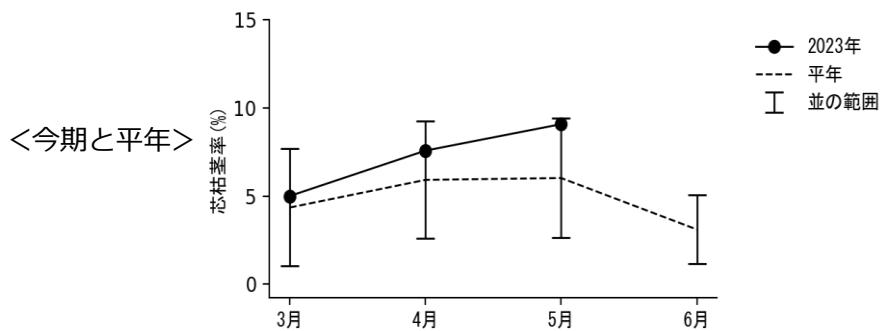


作物	さとうきび		地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類(カンシャシクイハマキ・イネヨトウ) (株出し)			
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並		
予報	5 月からの増減傾向	↓		
	6 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果


芯枯茎率の推移



- ・ 茎内で発見したメイチュウ類は、全てカンシャシクイハマキであった。
- ・ 発生ほ場率100% (平年 : 87.3%)

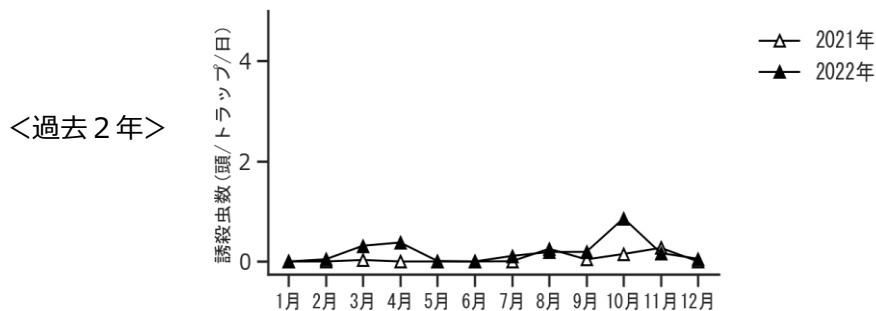
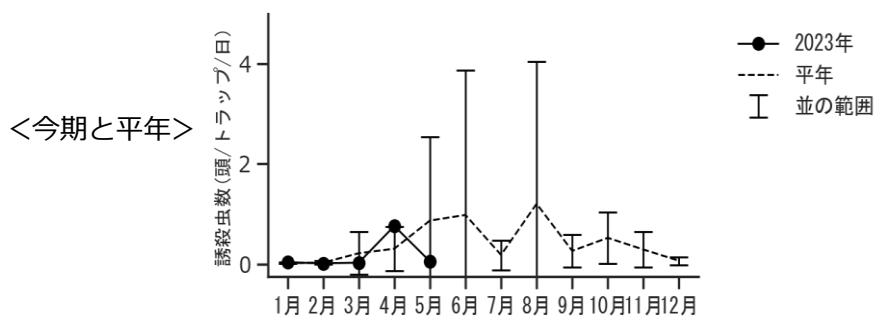
防除のポイント

- ・ ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・ 加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、植付けおよび株出し管理時から生育初期にかけての防除を徹底する。

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	チャノキイロアザミウマ		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予 報	5 月からの増減傾向	→	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

トラップ当たり誘殺虫数の推移




・発生施設率60.0% (平年 : 41.2%)

防除のポイント

- ・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
- ・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

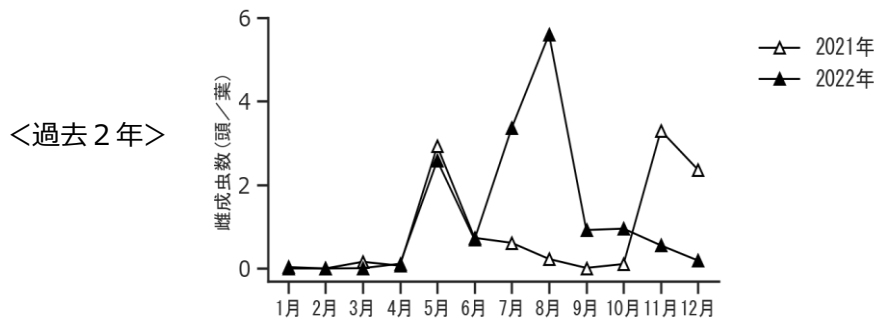
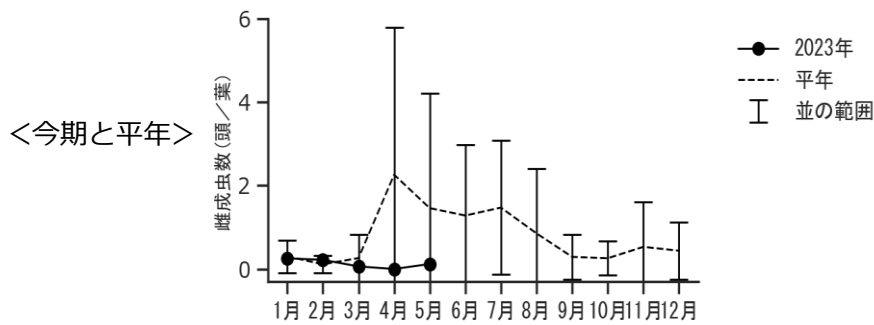


ナガエコミカンソウ

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	① ハダニ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	→	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)	

調査結果

雌成虫数の推移



- ・発生種：シュレイツメハダニ
- ・発生施設率20.0% (平年：38.8%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

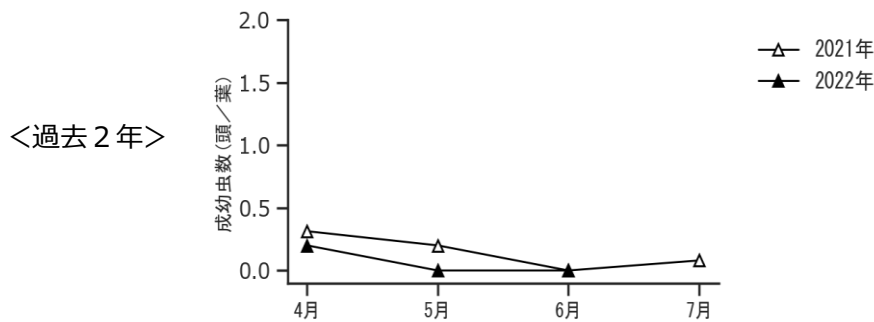
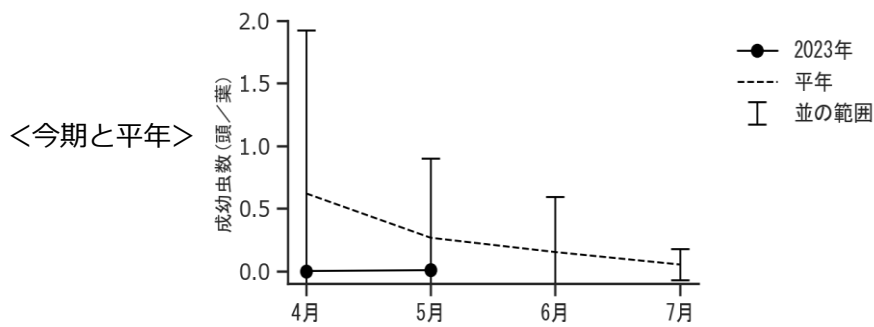


マンゴーツメハダニ

作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	① アブラムシ類		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↘	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↘)	

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率20.0% (平年 : 32.7%)

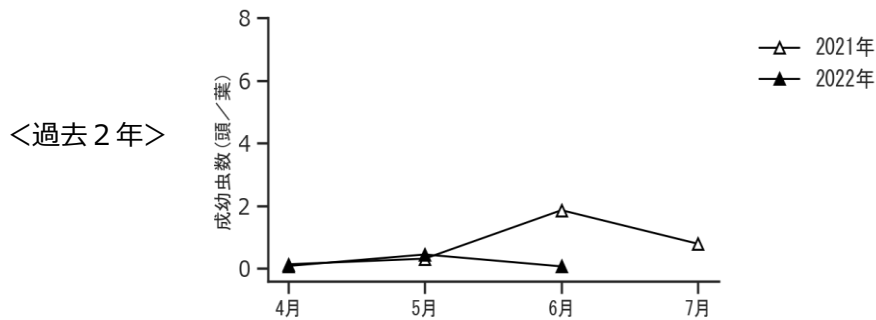
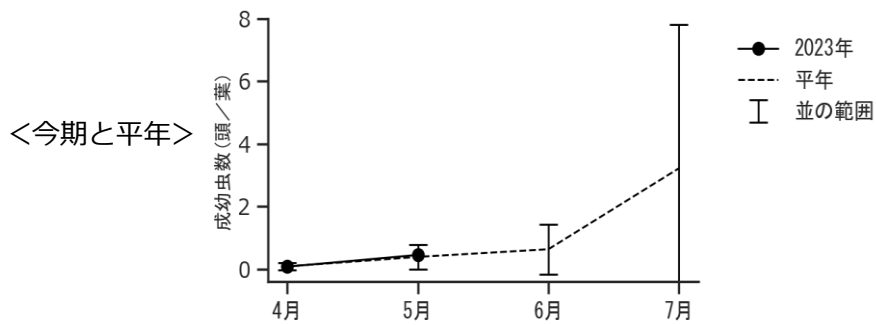
防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。

作物	オクラ		地域	宮古群島	
病害虫名	② フタテンミドリヒメヨコバイ		 <p>成虫</p>		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並			
予報	5 月からの増減傾向	→			
	6 月の発生量 (平年比)	並			
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)			

調査結果

成幼虫数の推移




・発生ほ場率40.0% (平年 : 63.3%)

防除のポイント

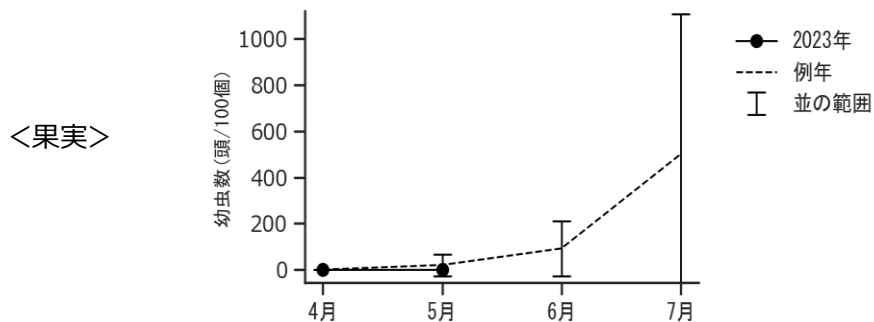
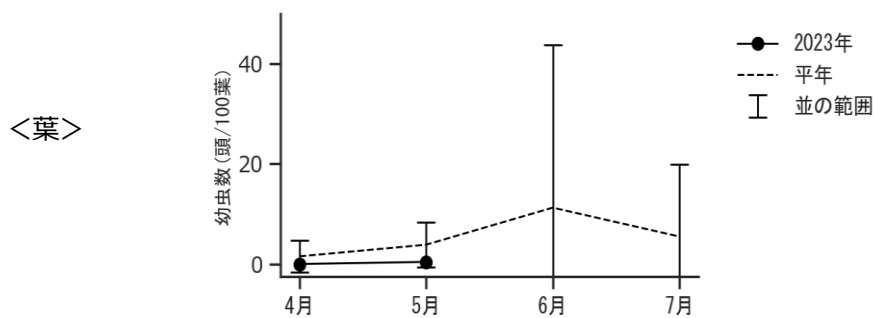
・多発すると被害葉は黄変萎縮するので、葉裏を観察し、早期発見・防除に努める。



作物	オクラ	地域	宮古群島
病害虫名	③ チョウ目幼虫		
調査結果	5 月の発生量 (平年比)	並	
予報	5 月からの増減傾向	↗	
	6 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

幼虫数の推移 (今期と平年)



- ・発生種：ワタノメイガ、ハスモンヨトウ
- ・発生ほ場率40.0% (平年：40.8%)

防除のポイント

- ・発生密度が低い場合は、捕殺が有効である。
- ・食害痕を発見したら、速やかに薬剤を散布する。

